IT資格道場

ITIL Foundation Bridge (Version 5) 学習用テキスト

ITIL 4 からの変更点を読んで理解する1冊目

無料サンプル(第1章まで)

ITIL® ファンデーションブリッジ(バージョン5) シラバス 日本語版 v5.0(2026年2月) 準拠
2026年11月版

SAMPLE

ご利用にあたって

- このテキストは「IT資格道場」(www.shikaku-doujou.com)の購入者限定テキストのうち、学習用テキストの第1章までを収録した**無料サンプル**です。どなたでもご覧いただけます。
- 無料サンプルも著作物です。転載・改変しての再配布・二次販売はできません。
- AI モデルの学習データとしてのご利用(学習目的の入力・データセット化を含む)はできません。
- 製品版(学習用テキスト・頻出度別ノート・暗記用ノートの3点)は、ご購入者を識別できる透かし入りのPDFとして提供されます。
- 本PDFはスマートフォン・タブレットでの閲覧に合わせたA5版面・文字サイズで組版しています。

SAMPLE

目次

この試験と、この本の方針

第1章 主要なITIL用語と定義（バージョン5） [1.1/1.2/1.3/1.4]

プロダクトとサービスは二者択一ではない [1.1]

ITILプロダクトおよびサービスライフサイクル [1.1]

有用性・保証・ユーザー体験・持続可能性 [1.1/1.4]

サービス提供物とその3つの形 [1.2]

価値と価値共創 [1.3]

アウトプットと成果 [1.3]

サービス関係の当事者 [1.4]

サービスジャーニー [1.4]

基本関係・協力関係・協働関係（パートナシップ） [1.4]

スポンサー・顧客・ユーザー [1.4]

サービス品質・サービスレベル・SLA [1.4]

試験での使い方 [1.1/1.2/1.3/1.4]

サンプルはここまでです

SAMPLE

📌 **見出し末尾の [1.1] [2.1/2.2] は、公式シラバスの到達目標（トピック）番号**です。どの節がどの出題範囲に当たるかを、見出しだけで追えます。

この試験と、この本の方針

この試験は何か

ITIL ファンデーション ブリッジ（バージョン5）とは、ITIL 4 の認定を持つ人が、ITIL（バージョン5）の認定へ移るための試験です。提供は PeopleCert です。[1]

- 受験の前提：ITIL 4 の認定（Cloud と Sustainability の Specialist を除く）。
- 受験言語：日本語で受験できる。
- 出題は、ITIL 4 から変わった点とバージョン5 で新しく入った点です。ITIL 4 から変わらない論点は、再び問われません。[2]

試験の基本情報

項目	内容
問題数	**20問**
試験時間	**30分**（母国語以外で受験する場合は38分）
合格点	**13点（65%）**
形式	4つの選択肢から1つを選ぶ
持ち込み	**なし**

SAMPLE

試験の設計図（＝この本の章立ての根拠）

公式シラバスは、7つのカテゴリーごとの比重を公表しています。この本の章は、この7つと同じ順に並べました。[2]

章	カテゴリー	比重	20問のうちの問数
第1章	主要なITIL用語と定義	30%	6問
第2章	ITILプロダクトおよびサービスマネジメントの4つの側面	10%	2問
第3章	ITILプロダクトおよびサービスライフサイクル	25%	5問
第4章	ITILバリューシステム	20%	4問
第5章	バリューストリームの特定、マッピング、および管理	10%	2問
第6章	ITILとAI	0〜5%	0〜1問
第7章	ITILとその他のフレームワーク	0〜5%	0〜1問

ブルームレベル（どこまで覚えればいいか）

公式シラバスでは、BL1 の問題が40%、BL2 の問題が60%です。[2]

SAMPLE

レベル	問われること	効く勉強
BL1（想起）	用語を「思い出す」「定義する」	定義の言い回しを覚える
BL2（理解）	「述べる」「説明する」	似た語との違いが言えるか、使いどころが分かるか

SAMPLE

第1章 主要なITIL用語と定義（バージョン5）[1.1/1.2/1.3/1.4]

📌 この章の到達目標：1.1〜1.4

この章は試験の30%、20問のうち6問を占めます。出題は、バージョン5で新しく入った語、変わった語、広がった語に絞られます。ITIL 4 ファンデーションと変わらない語は、再び問われません。[3]

問われ方は2通りです。語の定義をそのまま選ばせる問と、短い場面を読ませて、どの語に当たるかを選ばせる問です。定義の問では、定義の一文に近い言い回しが選択肢に並びます。

プロダクトとサービスは二者択一ではない [1.1]

ITIL（バージョン5）は、プロダクトとサービスを対立させません。プロダクトとサービスは、デジタル技術で実現された同じ解決策の表と裏であり、どちらも事業の価値を届けるためのものとされています。[4]

シラバスは、これらの語を「デジタルプロダクトおよびサービスマネジメント」の主要な概念として扱います。サービスだけでなくプロダクトも、同じ枠組みの対象になります。選択肢に「サービスだけの枠組み」とあれば誤り。

用語	試験で押さえる中身
サービス	消費者が特定のコストとリスクを管理することなく、消費者が達成したい成果を促すことで、価値共創を可能にする手段[5]

SAMPLE

用語	試験で押さえる中身
プロダクト	組織のリソースの構成。消費者に価値を提供するよう設計される[6]
デジタルプロダクト	デジタル技術に基づく組織のリソースの組み合わせ。消費者に価値を提供するよう設計される[7]
デジタルサービス	商品の移転は、デジタルサービスではまれだが起こりうる[7]

デジタルプロダクトの定義は、「デジタル技術に基づくリソースの組み合わせ」と「消費者に価値を提供するよう設計」の2点が組になっています。デジタルプロダクトの定義を問う問では、サービス提供物の定義や、サービス活動の定義が、誤りの選択肢に並びます。誤りの選択肢は、別の語の定義をそのまま貼ったものにすぎません。語と定義を組で覚えておくと、取り違えにくくなります。[7]

ITILプロダクトおよびサービスライフサイクル [1.1]

ITIL プロダクトおよびサービスライフサイクルは、8つの活動で成り立つモデルです。8つの活動は、どのプロダクトにもサービスにも当てはまります。[4]

1. 発見（Discover）
2. 設計（Design）
3. 取得（Acquire）
4. 構築（Build）
5. 移行（Transition）
6. 運用（Operate）
7. 提供（Deliver）

SAMPLE

8. サポート（Support）

発見は、プロダクトとサービスについて、ニーズと機会を探り、優先順位を付ける活動です。サポートは、プロダクトの通常運用と、サービスの提供を、必要なときに回復させる活動です。[75]

「取得」は、英語の Acquire にあたる語です。8つに含まれない活動として、似た語（Obtain など）が選択肢に置かれることがあります。日本語名と英語名の対応は、落とせません。[7]

8つの活動は、順序どおりに進む直線ではありません。反復して使えます。各活動の目的と成功の測り方は、第3章で扱います。

有用性・保証・ユーザー体験・持続可能性 [1.1/1.4]

バージョン5のシラバスは、有用性、保証、ユーザー体験、持続可能性の4つを、同じ基準で並べて問います。有用性と保証だけでは足りません。残る2つの定義も、言えるようにしてください。

語	定義	要約の言い回し
有用性	プロダクトまたはサービスが、特定のニーズを満たすために提供する機能	「サービスが何をするか」。目的に適う（fit for purpose）か否かで測る
保証	プロダクトまたはサービスが、合意された要件を満たすことの保証	「サービスがどう機能するか」。利用に適う（fit for use）か否かで測る
ユーザー体験	サービスユーザーが知覚する、サービスおよびサービスプロバイダとの、機能面と感情面のやり取りの総和	使う人の知覚で決まる

SAMPLE

語	定義	要約の言い回し
持続可能性	プロダクトまたはサービスが、環境への配慮、社会の進歩、経済の成長に関する要件を満たし、今後も満たし続けることの保証	要件は国内外の規制や標準、または組織の持続可能性戦略に由来しうる

有用性が成り立つには、サービスが消費者のパフォーマンスを支えるか、消費者の制約を取り除く必要があります。保証が扱う領域は、サービスの可用性、キャパシティ、セキュリティのレベル、継続性などです。[75]

持続可能性の要件には、材料と部品の責任ある調達、責任ある労働と雇用の慣行、クリーンエネルギーの利用、低い炭素排出、再生材やリサイクル可能な材料の取り込み、透明な供給網などが含まれます。持続可能性の要件は、規制や標準だけから生じるものではありません。組織の持続可能性戦略で定める場合もあります。[7]

⚠️ 場面で間違えやすいのは、有用性と保証の入れ替えです。「何をするか」は有用性で、「どう機能するか」は保証。「目的に適う」と「利用に適う」も同じ対応なので、逆にした選択肢は誤りになります。責任ある調達や再生材の利用は、持続可能性の例です。ユーザー体験の例でも、保証の例でもありません。[75]

有用性と保証は、サービス価値を構成する、互いに補い合う2つの側面です。有用性は「サービスが何をするか」を表し、保証は「サービスがどう機能するか」を表します。この補完の関係は、サービス関係の説明（1.4.9）でも問われます。[5]

SAMPLE

サービス提供物とその3つの形 [1.2]

サービス提供物は、1つ以上のサービスの正式な記述です。設計の対象は、ターゲットとなる消費者グループのニーズ。サービス提供物には、商品、リソースへのアクセス、サービス活動を含められます。[7]

サービス提供物に含まれる、消費者とサービスの間の関わり方は、次の3つです。[5]

関わり方	定義	例
商品の移転	サービスプロバイダから消費者へ、商品が渡る。デジタルサービスでは、まれだが起こりうる	機器や消耗品の受け渡し[7]
サービス活動	サービスプロバイダ、またはプロバイダと消費者が共同で行う行動	サービス要求の履行、商品の配送、ユーザー研修、相談[7]
リソースへのアクセス	消費者が、プロバイダのリソースを利用できるようになる。合意された条件に従って使う	クラウドサービス、貸与された機器[75]

リソースへのアクセスは、所有権が移転せず、消費者に使用権が与えられる場合に当てはまります。消費者は、そのリソースを管理する負担を負いません。サービスの定義にあるとおり、消費者が特定のコストとリスクを管理せずに済むからです。[5]

場面を読んで3つに振り分ける問が出ます。手順は次の3段です。

1. 物が渡って消費者のものになるなら、商品の移転

SAMPLE

2. プロバイダ（またはプロバイダと消費者）が何かの作業をするなら、サービス活動
3. 消費者が、プロバイダ側の仕組みや資源を、合意した条件で使えるようになるなら、リソースへのアクセス

例を2つ見ます。従業員が社内のファイル共有プラットフォームを使う許可を受けた場面は、プラットフォームという資源を使えるようになったので、リソースへのアクセスです。物が渡ったわけでも、誰かが作業をしたわけでもありません。ユーザーがノートPCの設定を終えられるよう、サービスプロバイダのチームが手伝った場面は、サービス活動に当たります。機器を渡したのではなく、プロバイダが行動したからです。[7]

プリンターが納品され、供給元が継続して保守とサポートを行う場面は、納品が商品の移転、保守とサポートがサービス活動で、2つの形が同時に存在します。1つの場面に、複数の形が共存できます。自動化がリソースへのアクセスを支えても、サービス活動を置き換えはしません。[5]

サービス提供物は、関わり方の種類の1つではありません。関わり方の3つを含みうる「記述」です。「サービス提供物はリソースへのアクセスと同じ」とする選択肢や、「サービス提供物は消費者とサービスの間の関わり方の1つ」とする選択肢は、誤りです。[5]

サービスジャーニーとの違いも、場面の問で確かめられます。サービスジャーニーは、特定の種類の関わりを指しません。時間をかけた関わりの連なり全体が、サービスジャーニーです。物が渡ったという一点だけを見て「サービスジャーニー」と答えれば、誤りになります。[5]

SAMPLE

価値と価値共創 [1.3]

サービスの価値は、サービスが持つと知覚される便益、有用性、重要性です。[5]

サービスは、消費者が望む成果を実現しやすくする手段です。消費者は、特定のコストとリスクを管理する必要がありません。その分、価値共創が可能になります。サービスプロバイダは、消費者の成果の達成を助け、その際に、コストとリスクの一部を自ら引き受けます。プロバイダは通常、特定の種類のサービスに特化しており、何でも提供する存在ではありません。[7][5]

サービスの価値は、プロバイダ側の投入では決まりません。サービスは、新しいコストとリスクをもたらすことがあります。一部の意図した成果を支える一方で、別の成果に悪い影響を与える場合もあります。良い影響が悪い影響を上回るときにだけ、消費者はそのサービスを価値あるものとして知覚します。プロバイダが資源にいくら投じたかは、消費者の評価と無関係です。プロバイダの数も同じで、関係しません。[7]

サービス消費者にとっての価値には、4つの性質があります。[7]

- 消費者自身のニーズによって定まる
- 意図した成果の支援と、消費者のコストとリスクの最適化を通じて実現する
- 主観的で、サービスの体験に左右される
- 時間が経つと変わり、状況が違っても変わる

価値の定義では、成果、コスト、リスクが一組で扱われます。価値は成果を支えるだけでなく、消費者のコストとリスクを最適化して実現するものだからです。

サービスの定義の中で、成果は「消費者が達成したいもの」として出てきます。サービスは成果を支える手段ですが、新しいコストとリスクのせいで、成果の

SAMPLE

一部に悪い影響が出る可能性を、排除できません。

アウトプットと成果 [1.3]

アウトプットは、活動が生み出す、有形または無形の提供物です。作成した報告書、用意したサーバー、処理を終えたチケットのように、活動の結果として作られた物を指します。[8]

成果は、1つ以上のアウトプットによって可能になる、利害関係者にとっての結果です。サービスの定義で「消費者が達成したいもの」として出てくるのが、この成果です。[8]

語	定義	見分けの手がかり
アウトプット	活動の、有形または無形の提供物	活動が作った物。数えやすい
成果	1つ以上のアウトプットによって可能になる、利害関係者にとっての結果	利害関係者の側に起きた変化

2つの語のつながりは一方向です。アウトプットが成果を可能にし、1つの成果に複数のアウトプットが関わることもあります。成果からアウトプットが生まれる、という向きの説明は定義に合いません。[8]

アウトプットを届けても、成果が得られるとは限りません。新しいシステムが稼働しても、使いにくくて誰も使わなければ、利用部門の仕事は良くなりません。この場面で、稼働したシステムはアウトプット、得られなかった仕事の改善が成果に当たります。処理したチケットの件数のように、アウトプットの多さは数えやすい反面、それだけで良いサービスの証拠にはなりません。消費者が求めているのは、成果の方です。[8]

SAMPLE

サービス関係の当事者 [1.4]

シラバスがサービス関係の主要な概念として定義を求めるのは、組織、サービスプロバイダ、サービス消費者、デジタルプロダクトベンダーの4つです。

デジタルプロダクトベンダーは、デジタルプロダクトを作り、改善する立場です。サービス消費者の役割ではないので、サービス消費のための予算を承認する立場にもなりません。[5]

サービスプロバイダは、サービスを提供して、消費者が成果を達成するのを助ける立場。サービス消費者は、サービスを受けて成果を得る側の役割です。サービスジャーニーの定義にあるとおり、プロバイダと消費者は、サービス関係に携わる組織が果たす「役割」にほかなりません。役割なので、1つの組織が、ある関係ではプロバイダ、別の関係では消費者になることもあります。[9]

サービスジャーニー [1.4]

サービスジャーニーは、サービス関係に携わる組織が、サービスプロバイダ、サービス消費者としての役割を果たすために行う、活動とやり取りの総和です。[5]

サービスジャーニーは、ITIL 4 では上位のモジュール（Drive Stakeholder Value）で扱われていた内容です。バージョン5になって、ファンデーションの範囲に入りました。ブリッジ試験でも、出題される語です。[4]

基本関係・協力関係・協働関係（パートナシップ） [1.4]

サービス関係の類型は、基本関係、協力関係、協働関係（パートナシップ）の3つです。日本語版シラバスの訳語は、この3つの名前で統一されています。名前と訳語は、そのまま言えなければなりません。[310]

SAMPLE

3つの類型は、サービスプロバイダとサービス消費者の結びつきの深さで並びます。浅い方から、基本関係、協力関係、協働関係（パートナシップ）の順です。[11]

類型	結びつき	当てはまる場面
基本関係	最も浅い。やり取りは取引に要る範囲にとどまり、標準化されたサービスを受け取る	汎用品（コモディティ）として売られる既製のサービスを、決まった条件のまま使う
協力関係	2つの間。基本関係より情報の共有と作業の調整が増えるが、協働関係までは結びつかない	両端のどちらにも当たらない場面
協働関係（パートナシップ）	最も深い。両者が密に協働し、目標を共有して、リスクも分け合う。戦略の水準で結びつく	戦略上の重要なサービスを、両者で計画して進める

場面を読んだら、まず両端に当てます。標準化された既製のサービスを取引の範囲で使うなら基本関係。目標とリスクを分け合い、戦略の水準で組むなら協働関係です。どちらにも当たらず、情報の共有と調整が基本関係より多ければ協力関係になります。並びを逆にした選択肢、たとえば基本関係を最も深い結びつきとする説明は誤りです。[11]

スポンサー・顧客・ユーザー [1.4]

サービス消費者の側の役割は、3つあります。[5]

SAMPLE

役割	定義
スポンサー	サービス消費のための予算を承認する役割
顧客	プロダクトとサービスの要件を定義し、サービス消費の成果に責任を負う役割
ユーザー	サービスを使う役割

判定の手順は簡単で、お金を承認するならスポンサー、要件を決めて成果の責任を負うなら顧客、使うならユーザーです。予算を承認するのは、顧客でもユーザーでもありません。顧客は要件と成果の責任を負いますが、予算は承認しません。ユーザーは使う立場なので、資金の承認とは無関係です。[5]

サービス品質・サービスレベル・SLA [1.4]

サービス品質は、述べられたニーズと暗黙のニーズを満たす能力に関係する、サービスの特性の総和です。合意された要件や期待に、サービス全体がどれだけ応えられるかを指します。インシデントの解決の速さだけで決まるものではなく、開発の速さでも、社会的責任だけでもありません。インシデントとは、サービスの計画外の中断、またはサービスの品質の低下を指します。[5]

サービスレベルアグリーメント（SLA）は、サービスプロバイダと顧客との間の文書化された合意です。提供されるサービスと、各サービスの合意されたレベルを特定します。[75]

期待された品質と達成された品質について、共通の理解を作り、サービスの改善を管理する一般的な方法が、SLA です。サービスレベルの要件は、サービスの設計と合意への入力にとどまり、それだけでは共通の理解を作れません。SLA として正式にまとめて、初めてその役割を果たします。[5]

SAMPLE

誤りの型	正しい内容
SLA は罰則を中心とした法的契約	提供するサービスと、サービスごとの合意されたレベルを特定する、文書化された合意
SLA は非公式な話し合い	文書化された合意であり、正式なもの
SLA は社内の IT だけが関わる	サービスプロバイダと顧客の両者の間の合意

SLA は、プロバイダと顧客の間の、文書化された合意です。この3点（文書化、プロバイダと顧客の間、サービスと合意レベルの特定）を、選択肢と1つずつ照らしてください。[7]

試験での使い方 [1.1/1.2/1.3/1.4]

この章の出題は、定義の一文と、場面への当てはめの2種類。場面で問われやすいのは、次の3つです。

- 3つの関わり方（商品の移転、サービス活動、リソースへのアクセス）のどれに当たるか
- 有用性、保証、ユーザー体験、持続可能性のどれに当たるか
- スポンサー、顧客、ユーザーのどれの責務か

場面の文を読んだら、先に「物が渡るか」「誰かが作業するか」「資源を使えるようになるか」を判断します。次に、定義の一文と選択肢を照らします。似た語の定義が誤りの選択肢に貼られるので、語と定義の組を1つずつ確かめてください。

SAMPLE

サンプルはここまでです

続き(第2章〜巻末)は、ITIL Foundation Bridge (Version 5) 問題集のご購入で、頻出度別ノート・暗記用ノートと合わせて3点すべてダウンロードできます。

Footnotes

1. PeopleCert「ITIL Foundation Bridge (Version 5)」試験ページ。https://www.peoplecert.org/jp/browse-certifications/it-governance-and-service-management/ITIL-1/itil-foundation-bridge-version-5-4158 ↩

2. PeopleCert「ITIL ファンデーション ブリッジ シラバス」日本語版 v5.0 第1節・第4節・第5節。https://peoplecert.jp/doc/ITIL_FND_Bridge_Syllabus_JA_v5.0.pdf ↩ ↩2 ↩3

3. PeopleCert「ITIL ファンデーション ブリッジ シラバス」日本語版 v5.0 第1節・第4節（トピック 1.1 〜 1.4）・第5節。https://peoplecert.jp/doc/ITIL_FND_Bridge_Syllabus_JA_v5.0.pdf ↩ ↩2

4. ITIL.com「ITIL Foundation (Version 5) – What's New?」ITIL (Version 5) – the core thinking ／ a deeper dive の節。https://www.itil.com/Itil-News-and-Announcements/itil-version-5-foundation-whats-new-guide ↩ ↩2 ↩3

5. PeopleCert「ITIL Foundation Bridge Sample Paper 2 Answers and Rationales」v5.0 問1・2・3・4・5・6・10 の解説（『ITIL Foundation (Version 5)』3.1.1、3.1.2、3.2.1、3.2.1.1、3.2.3、3.2.4、3.2.5、4.1、4.7.2 の

SAMPLE

引用）。https://www.mitsm.de/wp-content/uploads/2026/03/ITIL_FND_Bridge_SP2_Rationales_EN_v5.0.pdf ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6 ↩7 ↩8 ↩9 ↩10 ↩11 ↩12 ↩13 ↩14 ↩15 ↩16 ↩17 ↩18 ↩19 ↩20

6. プロダクトの定義（ITIL Foundation (Version 5) の解説 5 件で一致）。PMG Academy https://www.pmgacademy.com/en/articles/itil/the-definitive-guide-to-itil-version-5-foundation/ ／ Nex Arc「Product and Service Management」https://nex-arc-learning.com/peoplecert/itilfnd-v5/study-guide/key-itil-terms/product-service-management/ ／ OpenExamPrep「2.6 Products, Services and Service Offerings」https://open-exam-prep.com/study-guides/itil-4-foundation-v5/key-terms-definitions/products-services-service-offerings ／ StudyStack「ITIL v5 Bridge」https://www.studystack.com/flashcard-3285443 ／ marks4sure 問 17 の解説 https://www.marks4sure.com/itil-5-foundation-itil-foundation-version-5-questions.html ↩

7. PeopleCert「ITIL Foundation Bridge Sample Paper 1 Answers and Rationales」v5.0 問1・2・3・4・12・13・19 の解説（『ITIL Foundation (Version 5)』3.1.1、3.1.2、3.2.4、3.2.5、4.1、4.5.1、5.2.1.1 の引用）。https://www.mitsm.de/wp-content/uploads/2026/03/ITIL_FND_Bridge_SP1_Rationales_EN_v5.0.pdf ↩ ↩2 ↩3 ↩4 ↩5 ↩6 ↩7 ↩8 ↩9 ↩10 ↩11 ↩12 ↩13 ↩14 ↩15 ↩16 ↩17 ↩18

8. アウトプットと成果の定義と関係（ITIL Foundation (Version 5) の解説 6 件で一致）。PMG Academy「The Definitive Guide to ITIL® Version 5

SAMPLE

Foundation 」 2.4.1 https://www.pmgacademy.com/en/articles/itil/the-definitive-guide-to-itil-version-5-foundation/ ／ Nex Arc「ITILFND-V5 Study Guide: Value Co-creation 」 https://nex-arc-learning.com/peoplecert/itilfnd-v5/study-guide/key-itil-terms/value-co-creation/ ／ OpenExamPrep「 ITIL Foundation Version 5: 2.4 Outcomes, Outputs, Costs and Risks」https://open-exam-prep.com/study-guides/itil-4-foundation-v5/key-terms-definitions/outcomes-outputs-costs-risks ／Meridian Labs「ITIL 5 Foundation Study Guide」https://meridianlabs.us/blog/itil-study-guide ／SERVIEW「Outcome Instead of Output: How ITIL 5 Brings Value and Experience into Management 」 https://en.serview.de/detail/outcome-statt-output-wie-itil-5-wert-und-experience-in-die-steuerung-bringt ／CertLand「How to Pass PeopleCert ITIL 5 Foundation (2026) 」 https://certland.net/blog/peoplecert-itil-5-foundation-2026-study-guide/ ↩ ↩2 ↩3 ↩4

9. 1つの組織が、関係ごとにプロバイダにも消費者にもなること（ITIL Foundation (Version 5) の解説 2 件で一致）。OpenExamPrep「ITIL Foundation Version 5: 2.2 Service Relationships」https://open-exam-prep.com/study-guides/itil-4-foundation-v5/key-terms-definitions/service-relationships ／ Nex Arc「 ITILFND-V5 Study Guide: Service Relationships 」 https://nex-arc-learning.com/peoplecert/itilfnd-v5/study-guide/key-itil-terms/service-relationships/ ↩

SAMPLE

10. PeopleCert「ITIL Foundation Bridge (Version 5) Syllabus」英語版 v5.0 第 4 節 Topic 1.1 〜 1.4 。https://www.oxfordcollegeoftechnology.com/wp-content/uploads/2026/03/ITIL-Version-5-Foundation-Bridge-Syllabus.pdf ↩

11. サービス関係の3つの類型の並びと性質（ITIL Foundation (Version 5) の解説 6 件で一致・類型の名前は PeopleCert「ITIL (Version 5) Release Notes」v5.0）。PMG Academy「The Definitive Guide to ITIL® Version 5 Foundation 」 3.4 https://www.pmgacademy.com/en/articles/itil/the-definitive-guide-to-itil-version-5-foundation/ ／ Nex Arc「ITILFND-V5 Study Guide: Service Relationships 」 https://nex-arc-learning.com/peoplecert/itilfnd-v5/study-guide/key-itil-terms/service-relationships/ ／ OpenExamPrep「ITIL Foundation Version 5: 2.2 Service Relationships 」 https://open-exam-prep.com/study-guides/itil-4-foundation-v5/key-terms-definitions/service-relationships ／ StudyStack「ITIL v5 Bridge」 https://www.studystack.com/flashcard-3285443 ／ ITIL v5 Compass「 Value Co-Creation for Leaders 」 https://itil-v5-compass.pages.dev/en/leadership/value-co-creation ／ marks4sure 「 ITIL-5-Foundation 」 問 15 の 解 説 https://www.marks4sure.com/itil-5-foundation-itil-foundation-version-5-questions.html ↩ ↩2

SAMPLE

ITIL Foundation Bridge (Version 5) 学習用テキスト(無料サンプル)

版

2026年11月版(ITIL® ファンデーションブリッジ(バージョン5) シラバス 日本語版 v5.0(2026年2月) 準拠)

発行

IT資格道場(https://www.shikaku-doujou.com)

お問い合わせ

info@shikaku-doujou.com

ITIL® は AXELOS Limited(PeopleCert グループ)の登録商標です。記載されているその他の会社名・製品名・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

本教材は公式シラバスの内容を基に作成したもので、PeopleCert / AXELOS との提携・承認関係はありません。

本文・図表・設問はすべてオリジナルの著作物です。無断での転載・複製・再配布・二次販売はできません。お気づきの点は info@shikaku-doujou.com までご連絡ください。

SAMPLE